

第91回資金管理業務諮問委員会 議事録

1. 日時:2020年12月14日(月)14時00分～16時00分
2. 場所:公益財団法人自動車リサイクル促進センター 第1・第2会議室
3. 出席者:細田委員長、井岡委員、大石委員、菅原委員、高岡委員、村上委員、山下委員、山田委員 以上8名
その他 経済産業省・環境省担当官、自治体担当者、公益財団法人自動車リサイクル促進センター役職員が出席
4. 議題:①2020年度第2四半期の概況【報告事項】
②2020年度第2四半期の決算【報告事項】
③2020年度第2四半期の運用実績【報告事項】
④第1期の「新たな特預金の使途」の総括に向けて【報告事項】
⑤第2期の特預金の使途【報告事項】
⑥リサイクル券電子化の検討【報告事項】
⑦不適正保管事案への対応【報告事項】
⑧ユーザー理解活動の取組状況【報告事項】

5. 議事録

(1) 議題①について

2020年度第2四半期の概況について、事務局から資料「第91回 資金管理業務諮問委員会」の3～6ページにて報告した。

<主な意見>

【委員A】

第2四半期は第1四半期と比べて、新車販売台数は伸びているのか。

【事務局】

新車販売台数は回復してきている。

(2) 議題②について

2020年度第2四半期の決算について、事務局から同資料の7～13ページにて報告した。

<主な意見>

【委員A】

特預金の発生事由について、事故等(エアバック類)が減少しているとのことだが、交通事故が減少しているということか。

【事務局】

そのとおりである。報道によれば、新型コロナウイルスによる外出自粛の影響で、交通事故が減少しているようである。

(3) 議題③について

2020年度第2四半期の運用実績について、事務局から同資料の15～18ページにて報告した。

<主な意見>

【委員A】

P.15の「事業活動に関するキャッシュ・フロー +6億円」というのは、運用収入の27億円からすべてを差し引きしたものが6億円ということか。また、いつも収入の方が多いのか。

【事務局】

まず前者の質問については、そのとおりである。第2四半期のキャッシュ・フローは、収入の方が6億円多かったということになる。また、後者の質問については、概ね収入の方が多い。2020年度第1四半期は収入が少なかったが、第2四半期は預託収入が挽回した分多くなった。

(4) 議題④について

第1期の「新たな特預金の使途」の総括に向けてについて、事務局から同資料の19～27ページにて報告した。

<主な意見>

【委員A】

システム大改造は、いつから本格的に始まるのか。

【システム部】

2023年度から始まる予定である。

【委員B】

2019年度に不法投棄・不適正保管対策のモデル事業となった自治体は、2018年度モデル事業対象候補の53事案のうちに入っていたのか。

【再資源化支援部】

2018年度のモデル事業対象候補に入っていたが、決定には至らなかった。しかし、その後に現場から有害物質が発見されたという事情もあり、2019年度の募集の際に、新たに応募をされたという経緯がある。

【委員C】

地方自治体に対する支援として、特預金を使って学習の機会を設けるなど、とても良い取組であった。現在の地方自治体は、自動車リサイクルに関わる人員が確保できていないという実情がある。人員を補完するなど、そのような施策は今後検討するのか。

【再資源化支援部】

地方自治体への支援として、システムの改善や、新しいツールの提供などを現在検討しているところである。

【委員C】

若い世代への周知を目的とし、自動車学校の運転免許学科教本に自動車リサイクルへの関わり方についての情報を掲載したことはとても良かった。どのような内容を掲載

したのか教えてほしい。また、周知を高めるためには、自動車ディーラーで車を購入する方にチラシを配るなど、自動車リサイクルの周知をしていくことが重要であると考えるが、何か工夫などしているか。

【広報部】

運転免許学科教本には、車を購入する時に支払うリサイクル料金の使われ方や使用済み自動車のリサイクル・処理の流れなどを掲載し、車社会におけるユーザーとしての役割を紹介する取組みを行っている。

また、自動車販売時における周知について、自動車販売店では車の操作方法や損害保険の内容など、一つのパッケージの中でリサイクル料金についても説明がなされている。その自動車販売店の取り回しの中でどのような対応が適切なのか検討していきたい。

(5) 議題⑤について

第2期の特預金の使途について、事務局から同資料の28ページにて報告した。

<主な意見>

なし

(6) 議題⑥について

リサイクル券電子化の検討について、事務局から同資料の29ページにて報告した。

<主な意見>

【委員A】

リサイクル券の電子化は、検討を開始した当初の想定よりも遅れるということか。

【事務局】

そのとおりである。

【委員C】

再生プラスチックなどを使用した自動車の割引について、今後どのような流れになるか教えてほしい。また、今後自動車の電動化が進んだ時に備え、事前にリサイクルシステムの内容を検討することなどのために、特預金は使えないのか。

【環境省】

リサイクル料金の割引制度については、技術開発の状況や、プラスチックの再生に関する国際的な基準が定まっていないことから、状況を見て開始時期を判断する予定である。

【経済産業省】

特預金の使途については、法律で厳格に決まっているため、調査などにすぐ使用できるわけではない。しかし、自動車の変化とともに、リサイクルの在り方も変化していくと考えられ、社会情勢として放置できないため、重要な課題であると認識している。

(7) 議題⑦について

不適正保管事案への対応について、事務局から同資料の 30 ページにて報告した。また、詳細について、本事業の対象となった自治体が資料 3(非公開資料)を用いて報告した。

<主な意見>

【自治体担当者】

12月3日に開催された再資源化等支援検討会では、現場に残しても支障がない廃棄物を、各事業場内で保管すると説明をしたことについて、委員の方々から様々な意見をいただいた。それらの意見を踏まえ、内部で協議を行った結果、現場内の廃棄物をすべて除去する方針で再検討を行うこととした。

貴財団の不法投棄等対策支援事業により、長年にわたる懸案であった本事案の使用済自動車を適正に処理し、当該地域における生活環境保全上の支障の除去に取り組みたいと考えており、本事案の解決のために支援及び協力をお願いしたい。

【委員D】

不法投棄等の未然防止のため、啓発活動をするとのことだが、本事業の対象となった事案は、今回提案されたような啓発活動では防止できないのではないかと。

【自治体担当者】

今回対象となった事案は、経緯も含めて特殊なケースである。しかし、本事案のように問題が大きくなる前に、不法投棄等を監視する枠組みを使い、問題が小さいうちに発見して早期に対応することが、事案の解決を容易にすると考えている。早期発見及び早期解決につなげるための再発防止策として、このような取り組みを提案した。

【委員A】

早急に対処を行えばこのような大きな問題にはならなかったと思われる。この対策を行うことにより、不法投棄等の未然防止になると自治体が考えていることを理解した。

(8) 議題⑧について

ユーザー理解活動の取組状況について、広報・理解活動推進部から別冊「(報告)ユーザー理解活動の取組状況」にて報告した。

<主な意見>

【委員B】

「ゴミ人間ペルとクルマくん」の動画を見たが、自動車リサイクルについて、美しい色彩と面白いキャラクターを使い、自動車教習所や小学校へ配信をしていることにとっても期待をしている。現在のアニメブームに乗り、自動車リサイクルの認知度が低い30代の方たちにも発信できるのではないかと期待をしている。

【委員D】

新型コロナウイルスの影響によって、第3回作品コンクールの表彰式は行わず、受賞者の学校で表彰を行ったとのことだが、従来の表彰式のように、知らない人の中で表彰されるよりも、学校で知っている人のなかで表彰されたことが、子どもたちにとって良かったのではないかと。今後、表彰式の在り方も考えていくと良いのではないかと。また、子ども新聞に載せている記事がとても充実しており、冊子にまとめて周知したり

と活用ができるのではないかと思う。

以上